



省
流
記
行
全

洋学文庫
文庫 8
C 75

字
典



本職
入平大野之費之所並卦卦之取之平林

省濃紀行



明治十三年四月一日余甥吉田贊三帶

義子海藏之事故出京寄宿于余家調

理了事又將還余嘗有省濃之念而未果

適得此好機會便約同行亦非偶然也

四月十二日朝徹雨頃之而霽終日曇陰午前六時十八分贊三

同之京ヲ發シ七時汽車ニ乘リ八時前加奈州

驛ニ達シ是ヨリ小田原名物ノ馬車ハ御慶

ヲ入車ニ乘ル時方ニ仲春溪間ノ櫻ハ既に

登りてはゆる 旅まゝくさう那

十三日

朝細雨少
時而止

七時福住ヲ發シ三島驛ニテ晝

飯ヲ喫シ沼津原驛ヲ過キ吉原驛ノ東鈴

川村ヨリ左折シ新道ヲ取り午後五時比田

子ノ浦橋ヲ過シ橋長^ナ四五十間北ハ富嶽ヲ正面

ニ仰キ南ハ駿洋ノ渺漫ヲ眺ミ實ニ東海無比ノ

勝景タリ

四ッ乃時富士の青松の咏々々い

いつき 田子の浦物

晡前富士川ヲ渡リ八時奥津驛大黒亭ニ泊

ス

十四日 波晴 朝四時四十五分興津ヲ發シ七時半

阿部川ヲ渡ル橋ハ同地ノ富豪宮崎總吾

氏一己ノ創立ニ係ル下云

阿部川乃橋を宮崎總吾ぬ

二百八十間ハ架け渡り

八時五十分宇都山ヲ越ユ

あしりしりし申きよまふやま宇都山

宇つらよるふそふしりしりしりし

十午後一時大井川ヲ過グ

大井川あしりしハダカ裸体の國をたれ

今ハはらまの役人を見ん

うしりしりしりしりしりしりし

余谷驛ニテ晝飯ヲ喫シ夫ヨリ山路ヲ歩行

シ日阪ヨリ入車ニ乗り掛川袋井見付驛ヲ

經テ六時天龍橋ヲ渡ル

天龍乃流れ小架けし長橋也

大空初なる虹のまじり

七時四十分濱松驛花屋徳三郎宅ニ泊ル

十五日晴朝五時三十分驛ヲ發シ汽船ニ

十駕シ九時三十分新庄村ニ着ク

いふくしの濱名乃揚せぬ多へ

水蒸きし船乃吾り浮みし

幕級懐古

旅人乃申きいまれふたふり

濱松風の多ははり

午後一時三十分豊橋驛に抵り晝飯ヲ喫
シ御油赤坂ヲ經テ寶藏寺ヲ過キ御身隠山
ヲ遙拜シテ感アリ知シ夫日ト云ハ

御身隠山 東照君御危難ヲ北山ニ避ケ給ヒ
テヨリ御運ヲ開カレタリト云フ
を遙拜し奉り

御増し 御霊号より思ひし
高松ありし 御身隠山

三時三十分藤川驛ヲ過キ五時岡崎驛
傳馬所對馬亭ニ宿ス
十六日 雨 朝七時亭ヲ發ス昨夜ヨリ雨令

朝猶未ダ霽レズ車ニ油紙ヲ覆ヒ鬱陶堪ヘ
難ク頗ル旅愁ヲ覺ユ大濱池鯉鮒ヲ過キ桶
狹間ノ古戰場モ香ヲ奠スルニ由ナク勿々ニ
經過シ有招ニ抵ル時ニ雨益々甚シ此地有名ノ
鳴海紋ヲ産ス

降_ル雨ニ軋_リ車乃鳴海_ノ

旅_ノ衣_ヲ浣_リス

夫_レヨリ笠寺ノ笠ハ用オストモ桐油ノ薰リ

鼻ヲ衝キ憂結懊惱言フヘカラス午後一時漸
トヤク熱田驛紀國亭ニ著キ晝飯ヲ喫ス雨稍
ク止ニ二時亭ヲ發シ熱田明神ニ賽シ三時
名古屋本町八丁目近江屋清八宅ニ投宿ス贊
ト三ハ當地菅原街二丁目四十八番_地住小島政憲ヲ
訪ヒ夜同人ヲ携ヒ還リ来リ旅館ノ計算及
ト諸事ヲ料理シ又再々政憲ト同行別レ去リ
余ハ明日獨行美濃高富ニ赴クノ心計ヲ定
ム今日午後四時比ヨリ天全ク晴ル
十七日晴今朝六時三十五分名古屋ヲ發

シ八時四ッ谷驛ノ一茶亭ニ少憩シ夫ヨリ右
ニ折レ岐阜海道ヲ取り一宮驛笠柁加納ヲ經
テ午後一時岐阜長良川橋傍ノ茶亭ニ投シ
晝飯ヲ喫シ二時三十分山縣郡高富廿四番
地伴齋齋宅ニ安著ス

十八日晴 今朝春寒頗ル料峭薄霜アリ午前

東京ニ郵書ヲ出ス今日牙打温既鰻鱺竹筍

等ノ饗アリ

十九日晴 今朝八時大車ニ駕シ伴家ヲ費シ岐阜

ヨリ車ヲ換エ呂久川橋傍ノ一茶店ニ少憩シ夫

ヨリ道ヲ赤坂ニ取り午後一時十分赤坂驛ノ一茶亭

ニテ晝飯ヲ喫シ夫ヨリ車ヲ撤テ歩シテ長松

道ノ小徑ヲ取ル徑固ヨリ余カ少時屢々往來セシ

蕪路ナントモ星霜ノ久シキ或ハ茫洋岐路ニ迷

フ所モアリ彼ノ丘此ノ林亦タ依然舊容ヲ存シ

嘗テ父兄ニ隨ヒ採藥岐渉セシ地邊モ歴々目

睫間ニ現出シ來リ宛モ余ヲ笑迎スルカ如シ

或ハ稚柁躑躅花ノ開ラ穿行シ左顧右瞻坐

ニ舊遊ノ事蹟ヲ回想シ感慨感喜交々モ心

頭ニ集リ來リ更ニ道途ノ勞ヲ忘レ覺ユズ

長松吉田ノ家ニ著キ夕時ニ第三時ナリ姉名ハ
余カ聲ヲ聞キ皇念喜ニ迎エ互ニ安全ヲ祝
シ積年ノ話説述懐細々盡ル期ナク兄弟ノ友
交ホタ言外ノ情味アリ夜八時賛三モマタ帰リ
来リ皆一堂ニ會マリ酒茶饗候款待至ラサル
所ナク美濃米ノ精飯筍ノ甘煮鰻鱈ノ蒲焼
皆又夕一種ノ郷味アリテ殊更客情ヲ慰メリ
十時寢ニ就ク

廿日

後朝晴曇

六時三十分起蓐朝飯ヲ食シ一
煙ヲ喫シテ後姉名ト園圃ヲ周覽シ又夕東

園ニ歩シ孟宗林ニ入り筍三四根ヲ鑿リ家
ニ還リ抹茶ヲ喫シ清味ヲ取ル午後賛三ト共
ニ前溪ニ出テ釣ヲ垂テ鱖十四五頭ヲ獲タリ
時ニ素名表兄ヨリ書来以テ余ヲ招ク因テ六
時吉田ヲ發シ大垣醉月堂ニ到リ主人ト共ニ
西寄ノ飯沼ニ抵リ濃話時ヲ移シ十一時寢ニ
就ク

廿一日

今朝霧雨

九時飯沼ヲ發シ舟町伊精屋ヨリ
素名船ニ乗ル飯沼家僕與六此事ヲ周旋調
理ス十時三十分發船午後六時素名ニ著キ

直^ナニ三寄街五井徹道ヲ訪フ時ニ主人在ラ
ズ細名迎ヘ接ス話一話シ去ッテ中寶殿町山田
彦兄ニ詣ル兄喜ヒ迎ヌ互ニ平安ヲ祝シ濃話
款待備^ナニ至ル五井氏亦夕次テ来リ款晤時
ヲ移シ十時五分徹道辞シ去リ乃ケ寢ニ就ク
廿二日^雨七時起蓐中島七次来リ訪フ七次馬
影法ヲ以テ業ト為ス便^ハテ彦兄ト共ニ七次ノ
家ニ赴キ技術ヲ看ル依テ余ノ影ヲ寫ス午後
太田治平氏来訪ヒ棋三局ヲ圍ハ時ニ五井余ヲ
招請ス乃チ彦兄及治平ト共ニ五井氏ニ赴ク主

人喜迎ヘ盛饌ヲ饗ス今夜^{今晩}宿ス^{五井}
廿三日^{今晩}七時起蓐山田氏ニ還ル時ニ治平来
リテ先ツ右リ彦兄ト棋ヲ圍ハ余モ亦夕數局ヲ
圍ハ午後五井氏中島氏来晤シ刻ヲ移シテ辞シ
去ル明日汐千狩ノ遊ヲ約シ十一時寢ニ就ク
廿四日^晴六時起蓐十時小舟ニ駕シ^{新田}新田^{地名}ニ
汐千狩ニ赴ク天気晴風恬波平潮退洲出ツ士
女老少隊々羣ヲ成シ蛤ヲ拾フ余輩亦熊手
ヲ取リ砂ヲ把割スサカハ蛤ノ有名ノ地少時ニ
三四坪ヲ捕リ得タリ

乙女子可拾ふ瀉う以やうらうら

海船早しゆる赤貝や何り

時ニ漁舟一隻漁鼓ヲ拍チ帰リ来ル要シテ鮎
鮎^ナアオナノ數頭ヲ買フ鱸炙皆ナ一段佳絶ノ珍
味トス午後六時棹ヲ還ス同遊ノ者袁兄五井徹
道中島七次太田治平ナリ夜徹道及ヒ一家團
樂茶ヲ煮談話刻ヲ移ス細君又夕余カ為メニ
按摩師ヲ招キ懇篤備ニ至ル十時寢ニ就ク

廿五日 晴 昨夜ヨリ西風甚ク緊シク微寒ヲ覺ス

六時三十分起蓐治平氏来リ棋ヲ圍ハ午後六
時二十分袁兄及諸子ニ分レ大垣邦船ニ乘ル今
夜月正ニ望月光蓬窓ニ入リテ晝ノ如シ

廿六日 晴 今朝七時五十分舟大垣ニ著キ飯沼武
右衛門氏ニ至ル主人家ニ在リ酒饌ヲ饗ス定九
モ亦夕来會シ棋五六局ヲ圍ハ午後飯沼ヲ辞

シ人車ニテ長招吉田氏ニ還リ浴湯十時寢ニ就
ク今日東京ヨリ郵書著平安ヲ報シ来ル
四月廿七日 晴和午 今日將ニ赤坂ニ遊ントス贊
後薄曇

熊坂の名の跡り 阿久さか乃

於乃下 松本 至 坂と 滑く

此地ノ産物大理石及大古石數塊ヲ購ヒ歸路御
勝山ノ麓ニ途ヲ取ル北山ノ古名ヲ花岡山ト云フ
慶長五年東照名石田三成ト對陣ノ際北山
ニ大簇ヲ居エ遂ニ関ヶ原ニ進ニ大勝ヲ舉ラレ
タリ御勝山ノ稱便チ是ニ權輿スト云

凱歌のいさかき 阿けい 御勝山

治の御者のいさかき

青野ヶ原往昔ハ一大曠野ニシテ西ハ関ヶ原ニ連
リ北ハ赤坂山北良尾山南多岐養老南宮諸山下相
對時ス即チ関ヶ原戦場有名ノ舊蹟ナリ

青野ヶ原のいさかき 阿けい 乃忍ハれ

午後三時三十分 長沼村ニ還ル

廿八日 昨夜雨令 六時起蓐舊家僕與助來り余カ

帰省ヲ賀ス 補時日比野袋藏來ル今宵余カ為ニ

田樂ヲ焼キ一家歡宴ス

廿九日 薄曇 今日故祖母晴霞君五十四忌及生

母入阿名ノ祭典アリ因テ九時姉君ト人車ニテ

西寄ニ至ル 疾兄及妹於登為 伴後尊 乙テニ來

リテ先ツ在リ午後四時祭ヲ修ス會ニ臨ハ者

飯沼定九同武右衛河井周藏吉田總左衛門及

我輩四兄弟ナリ宴止ニ客散シ十一時四兄弟

一堂ニ寢卧シ蓐中互ニ舊情ヲ語り一段親

密ノ情懐ヲ催シ言外ノ感喜ヲ悉セリ又

廿日 雨 今日午前十時兄弟四人施主ト為リ故德

齋翁三世龍夫君 即使 四世龍夫兄ノ祭典ヲ修

ス午後七時主家ヨリ別ニ魚饌ノ饗アリ以テ今次

集會ノ煩ヲ表ス主家ノ款待備ニ至ル十一時二十

分客散シ寢ニ就ク

明治庚辰余帰省于美濃四月廿

日兄弟四人合同祭故父母若賦

之以献

不接警咳都幾年薰香と。拜
神前神威亭稟法開笑兄弟四
人齋献蓮

第六子宇興齋薰手謹書

五月一日 雨 午前七時起蓐彦兄ト棋數局ヲ
圍ハ午飯後吉田姉若山田彦兄伴於登為表
兄娘阿庄ト同シク園覺寺中ノ先塋ヲ拂ヒ夫コ
リ飯沼定九宅ニ至ル時ニ武衛己ニ先ツ定九ト合
議シ酒饌吾等兄弟ヲ饗ス席上主人定九余ガ

為ノニ豹狐

狂言戯秘
曲ノ一

ヲ演ス武衛脇手ヲ勤ハ皆

ナ正装ヲ著ク頗ル妙伎感服セシハ主人ノ款待

篤志ノホ下知ルハシ

三日 晴 朝六時起蓐於登為祥シテ高富ニ帰ル

今日南宮社

濃國中ノ大社即國幣中ニ詣セント
社高小長神社ト稱ス

欲ス便チ定九ト同シク午前十時家ヲ出テ步行

シ途ヲ表佐村ニ取リ十二時宮代村ニ抵リ南

宮ヲ并詣シ境内ヲ徘徊シテ殿宇神輿等ヲ

觀又夕余々少時嘗テ此ニ遊ヒシ地邊ナトヲ徬

徨シ感想スル丁多時夫ヨリ真善院

南宮ヨリ
北西ニ上

ル^ル許^ルニ抵リ茶ヲ乞フ院主喜ヒ迎フ乃チ行厨
ヲ開キ瓢酒ヲ飲ハ院主モ亦夕村酒ヲ温メ菜烹ヲ
供ス語説往昔ノ事ニ追ヒ院主傳來ノ関ヶ原古戦
ノ地圖ヲ出シ視セシハ亦夕大ニ考証ヲ得タリ三
時北院ヲ辞シ山ヲ降リ宮代村ニ還リ定九下別
定九ハ此村ノ縁
家ニ逗留ス垂井驛ノ東頭相川橋傍ノ
茶店ニ少憩シ此ヨリ人車ニ駕シ四時五分長沼
吉田ニ帰ル此日山路ヲ跋涉シ疲倦甚シ晚酌一
浴ノ後早ク寢ニ就ク

四日 晴 六時三十分起蓐朝飯ヲ喫シ園圃ヲ道

遙スルニ茶芽恰モ好ク萌發スルヲ見ル即チ新芽
一籃ヲ摘ミ予^カラ之ヲ焙製シ小半斤許ノ雀
舌^銘茶ヲ得即時一煎之ヲ試ルニ芳香神ヲ醒シ
極ノテ清味アリ午後四時伴俊尊西遊同行
ノ約ヲ履ミ高富ヨリ来ル由テ明日費途西遊
ノ事ヲ定ハ夜酒ヲ酌シ閑話刻ヲ移シ十一時
寢ニ就ク

五日 晴 曉四時十五分起蓐飯ヲ喫ス主人又夕
酒ヲ出シ費途ヲ祝ス五時三十分人車吉田
氏ヲ費シ垂井ノ驛野上ノ里関ヶ原ニ勿々過

行キ七時三十分不破ノ関ヲモ手券ヲ持タズ来
リ通り車返^地モ車ヲ戻サズ今頃ヲ越ハ寐物
語^{美濃近江ノ國界}ヲ新道ヨリ脇ニ見成シ八時三十分
柏原驛ノ一茶亭ニ少憩ス此驛名物産ノ^{モクサ}炙艾ヲ
賣ル家多ク前面ニ伊吹山近ク聳エタリ

もろやうの家立ちあふ柏原

伊吹の山を目志しはしる

車ノ軋ル音ニイテ眠ヲ催シ醒ケ井ノ宿モ夢中

ニ經過シ番場驛ニ抵リ稍^ヤ目ノ醒ノタルモ可
笑シ驛西十丁許ノ^江慶ヨリ新道<sup>從前磨針峠越
エヨリ近キ一里</sup>
ヲ取リ十時十分近州米原港井筒亭ニ著キ
晝飯ヲ喫シ汽船<sup>名號金
龜丸</sup>ノ第一笛ヲ聴キ之
ニ乗ル十一時五十分第三笛ト共ニ汽船發
锚ス此日天極ノテ晴和風靜波平ニ湖上一
大素練ヲ張ルガ如シ

木々やうは琵琶の湖かきさうし
笛乃あふく漕きかしり

水ヲ煮——亭走る、船路の波をり

遠くより見ゆる 山—生島山

飛雪あり、の雲うらと見し、いそれあらそ

此の島の根はくはへ乃方嶽

二時四十五分 水程九八里 右 即北 近ク沖ノ島ヲ

見左 陸地 位ニイサキ山湖上ニ突出ス山端岩石

斗絶シ上ニイサキ明神ノ祠堂アリテ景色奇

絶ナリ三時二十五分八幡山 豊臣秀次ノ城墟 南一里

許ニ見真ノ島ヲ半里許ニ見ル三上山漸ク近

ツキ木ノ濱燈臺ヲ左ニ堅田ノ雪見堂ヲ右リニ

見過ゴシ唐寄ノ招ヲ北六七丁ニ見テ六時十

分大津ニ上陸礼ノ辻ヨリ人車ヲ賃ヒ八時三十

分西京三條通東詰旅亭淡路屋勢太郎ノ樓

上ニ泊ス此宵嚮 ト 車夫 車夫下京區第八

者二十五年同幕吏同所西町 森岡房吉二十一年 兩人 来リテ我等歴遊ニ隨行

セリヲ乞フ乃チ雇錢ヲ定メ明日ヨリ三日

之間ノ隨後ヲ約ス

六日 晴 朝六時起蓐 東山笑フが如ク近ク窓前
ニ當リ頗ル 景色清雅ノ趣ヲ占メタリ

山 〱 の巻をほく 袖より三十八葉
ツキ乃みやまの花をみん

東山花のこ糸 〱 おはしき

三十六葉 〱 嗚きそらめり

七十分又車ニ駕シ亭ヲ設シ川東ヲ取り二條

橋ヲ渡リ今出川ヨリ北野ニ出テ天満宮ノ祠ニ
賽ス

るま振る 神ノ御まあゝ多々頼む

あつ子乃学ハ 強や進めり

夫ヨリ北良野ヲ過キ金閣寺ニ抵リ有名ノ庭
ヲ一覽シ

金閣寺ヲ觀テ有感 足利三代將軍
義満訂定

年経しこの年の開きの色も

若くは老いのか消へし

又夕車ヲ返ヘシ舊御所中ノ博覽會ヲ一覽ス
其体裁畧々東京勅工博覽場ニ似タレ凡古器物
ナドモ亦タ多ク展列セリ

元々も賢くものを治る物なる故に

ものたるたれ乃ちやけちりしれ

蘇りて今も此の如くは世に

此里に又萬家新の如くは世に

かゆきより以物なり思ふことあるを

二天景のいま目のまへに

神宮の天に下りて

館ヲ一覽シ了ハリ御園中ニ構ヘタル割烹店ニテ

晝飯ヲ喫シ此ヲ出テ又夕禁裏御所ヲ拜

觀ス日月御門紫宸殿清涼殿内侍所小御所

御學所ヲ始メ御園池等其結構優美ナル實ニ

品評スルモ恐レアリ

又此の如くは世に

文盛のりる所去るまゝいで九登の

宮へ詣りてあはれあはれ

淨園生乃樹のまき葉をわきまきまき

此部より所々去るをゆりし

并觀ヲ辛エ午後一時宇治ニ向ケ車ヲ走ラス時
ニ天曇リ一霎ノ雨アレバ桐油ヲ罩フホドニ至ラ
ス二時十分伏見稻荷前ニ少憩シ三時二十分宇
治里菊屋萬碧樓ニ投宿シ一憩ノ後平等院ニ

詣リ舊蹟ヲ尋ント境内ノ最勝院ヲ敲ク院主ノ
僧出テ應シ我等ヲ請シ茶ヲ薦メ後堂ニ誘
ヒ開藤原賴通公即チ宇治關白ノ画源三位賴政ノ像
平等院ノ古圖古瓦及種々ノ舊物ヲ觀セシハ當
時ノ院主ハ天台宗上村教觀ト稱シ比叡山ヨリ
大派出ノ僧ニシテ年終三十許頗ル學識アル者
ト見エ頗悟真率ニシテ古事ヲ談シ今時ヲ
評スルニ說話淡泊ニシテ亦夕梵境ノ高趣アリ
時大雨驟ニ降来リ即チ去ル能ハス是レガ為
ニ淹留時ヲ移シ雨少シク休ムヲ見テ辞シ去

リ旅亭ニ還ル

成り果以夕の名取まゝいふをいふて

女のみき乃芝ふ名をも留むる

一浴し燈下ニ日記ヲ書キ十一時寢ニ就ク

七日^晴六時起居今朝天晴ニ清爽拭フガ如シ

乙女子か木の芽摘みよこひてはて

戸あともふ白山宇治のゆほの

立揃ふと女う袖乃香も白ふ

其のり金々木の芽摘むる乃歌の留は

七時亭ヲ覆シ黄蘗山ヲ一覽セント宇治橋ヲ

北ニ渡ル

群弓争て由多幾ん毛のゆ乃

名は海もたる宇治を河波

サテ山内ニ抵リ僧ニ頼リテ七堂伽藍ヲ巡覽

ス此ノ寺ハ唐僧隱元禪師ノ開基ニシテ堂宇

ノ結構極ノテ宏壯其柱梁ハ皆十一天竺ノ木材
ヲ用井其規模總テ唐土ノ法ニ倣フ故ニ身殆下
支那ノ寺觀ニ遊フ想ヲ成セリ又夕本邦ニ一
切經ノ藏板アルハ此寺ノミナリト云
一切經計ハ
萬四千卷
現ニ摺工二名方ニ之ヲ印刷セ居レリ

黃葉乃河寺也古き唐の

影をうつしける法の一派

此ヨリ途ヲ奈良ニ向ケ長池ニテ少憩シ王

水村ヲ過キ十二時木津ニ抵リ晝飯ヲ喫ス
時ニ雷雨驟カニ来ル飯了リ即チ雨止ニ天
晴ル午後二時三十分奈良印判屋庄右衛門ニ
投宿シ直ニ導者ヲ雇ヒ此地ノ名勝ヲ探リ先
大佛殿ノ博覽會ヲ一覽ス其陳列品ノ多キ實ニ
駭クニ堪エ殊ニ正倉院御物ハ正真無疑貴重ノ
珍品少ナカラス古昔ノ事實ヲ想ヒヤラシ感
慨ノ情ヲ起コセリ

博覽會

大殿より西に流るる河をたづね

ふらふの都をたづねて木の花

大佛殿を拝して

築下のみ多きを拝して盧舎那佛

光りを清く照らす御寺を照らす

夫ヨリ春日明神に詣り

高杉の茂るる物ゆきをたづね

種乃あつらひの身そたづね

大杉を拝して遊ぶお寺をたづね

春の山をたづねて

六時旅舎の樓上へ還り泊る樓猿澤の池に臨

みて三笠山窓前に當り其景頗る奇絶なり

猿澤の池より流るる三笠山

流るる三笠山の以て

今日彼是巡覽ノ勞アリテ疲ル、了見シ九時寢
ニ就ク

八日 晴 今朝非常ニ寒氣ヲ覺ヘ草ニ露霜
ヲ帯ブ五時起蓐六時亭ヲ費シ八時三十分
木津川ヲ渡リ堤上ノ一茶亭ニ少憩シ九時四
十分長池ニ憩ヒ十時三十分伏見豊後橋側
宇治屋ニテ晝飯ヲ喫シ十一時西京白川ニ抵
リ十二時追分ニ小憩シ午後三十分逢坂山
ヲ越ス

八日 晴 今朝非常ニ寒氣ヲ覺ヘ草ニ露霜
ヲ帯ブ五時起蓐六時亭ヲ費シ八時三十分
木津川ヲ渡リ堤上ノ一茶亭ニ少憩シ九時四
十分長池ニ憩ヒ十時三十分伏見豊後橋側
宇治屋ニテ晝飯ヲ喫シ十一時西京白川ニ抵
リ十二時追分ニ小憩シ午後三十分逢坂山
ヲ越ス

一時三十分大津舟場ニ少憩シ此處ニテ召連
レシ車夫二人ニ服ヲヤリ二時三十分山田^{山田}
小流船ニ駕シ三時山田港ニ上陸四時^{佐ノ人}
車ニ乘リ六時三十分田川ノ石部屋治助方ニ
宿シ九時^{山田}寢ニ就ク

九日 晴 五時十分亭ヲ費ス車夫頗ル力強ク阪

路ヲ上下スルニ御車ノ法亦夕妙ヲ得タリ石
部土山ヲ經テ九時田村將軍ノ社前ヲ遙
拜シテ

あゝ乃みと阿のまゝを年らけし
御霊をたゞよ守りたむらふ

十二時二十分鈴鹿峠ニ少憩シ夫レヨリ大
車ヲ撤テ歩シテ山ヲ下リ阪ノ下驛ヨリ復
夕人車ヲ賃ヒ筆捨山ヲ左リニ見テ

二十分下りては、大西御嶽、寒風長中、
旅衣心よく、あゝ且節た、
十日、
筆捨山

十一時三十分関驛ニテ晝飯ヲ喫ス

大佛をきり、
関の地を

土俗、関の地を、
ト云フ、但歌アリ、故ニ之ニ及ブ

関の地を

驛ノ西令方ニ道路修繕ノ最中ニテ橋梁ヲ
毀テ土砂ヲ運フナトニテ車ヲ上下スルノ屢
ニテ甚タ五月ウケル蒼蠅シ左野石薬師四日市ヲ經
テ午後七時赤名山田彦兄家ニ著キ稍ク旅
心ノ苦ヲ忘レ爾來ノ旅況ヲ物語リ十一時寢
ニ就ク此夜復タ余カ為ニ按摩師ヲ招クナド懇
切ノ款待ヲ受ケタリ

十日 昨夜雨 今朝晴 六時起床五井徹道氏太田治平
氏來訪ニ旅況ヲ語り且ツ棋ヲ圍ハ午後五時
三十分山田ヲ別レ大垣通船ニ乘ル舟中ノ行

厨酒肴皆ナ山田氏ヨリ贈ラル懇篤ノ情感銘ニ
現ヘズ

彦兄ニ別ルニ臨ミ
邂逅ニ會フニ及ビ
此ノ歳ニまゆをうつふ

諸兄弟ニ會ハレ喜ビ
大揃ニお見合ハリ
まよる會リノや近キ年ノふ

素名舟中十録

子と足と枕と解^{イビキ}とくははらう

はまうしと舟乃字ちそ若^シと

舟の合乃舟の所しとさまくし

吾界の内をえらるあしと

不歌と旅の巻れとまをわら

水乃と舟を

行くと舟乃得木の巻とく郷とく

鐘と測を

鐘ヶ測素名ヲ距ル北一里ニ在リ一名蛇ノ宮ト云蓋シ鐘ヶ測ノ名徳雷ナル由

舟乃乃和とくまけとく

界の沖を渡るとく

千本松界共と地名

舟乃乃和とくまけとく

こつどまふ海と太田守新
こつどまふ海 太田守新

よる海まで、舟も進まなく今尾より

若と山越ふ、舟付の濱

今尾 舟付 皆地名

鶴の亦も夢の由り、水門を

通して、つらき海の沖

鶴ノ森 水門 廣ノ海 皆地名

大垣の堤、沼ひく今村の
十二日、大垣のつらき海、

酒のこゝ夕へ、茶名を、舟の

今朝大垣、小若と、つらき

十一日 晴 今朝七時四十分大垣舟所、著き一
店、少憩シ飯沼武衛、列ル主人酒肴、供
ス十一時又夕定九、至リ此、テ伴氏ト別

飯沼ヲ辞シ長招ニ赴ントス途俵町尾山孫左
ヲ訪ヒ主人及北堂ニ會ヒ舊話ヲ語り且今
次ノ帰途同行ノ事ヲ約シ十二時三十分舟町
ヨリ人車ヲ賃ヒ午後一時十分長招吉田氏ニ
還ル頃日東京ヨリ到来ノ家信二通ヲ領取
シ即チ報書ヲ製ル數日ノ旅行頗ル疲倦シ
覺ユ夜九時早ク寢ニ就ク

十二日 晴 六時起蓐朝飯ヲ喫シ主家自製ノ
新茶ヲ飲ハ芳香清味アリ今日少閑ヲ得机
ニ凭リ雜事ヲ収録ス主人亦タ各種ノ蓄

薇ヲ大垣ヨリ購ヒ園中ニ布置配植ス午後六
時ヨリ主人卜前溪ニ網ヲ投シ鯨一籃ヲ獲時
ニ細雨霏々トシテ来ル乃チ網ヲ収メテ還リ
或ハ炙リ或ハ煮醃酌シ下物ニ充ツホタ妙趣アリ
夜九時寢ニ就ク此夜雨晴ヲ撲ツ

十三日 晴 六時起蓐今日大垣ニ赴ントス午前十
時贊三ト同シク家ヲ出ツ贊三余ヲ誘ヒ久世
川地名割烹家吉村樓ニ上ル樓養老多岐多
良多度諸山連亘起伏シ東大垣川ノ長堤南
ニ延キ帆影ノ樹間ニ隱見スルヲ望ミ頗ル眩

景ヲ占ム四顧應接ノ間酒肴已ニ堅ニアリ饅
 饅ノ蒲燒鱒ノ塩炙其他各種ノ珍味ヲ陳列
 ス満砂醉リ琴ヶ樓ヲ出テ舊友若曾根宗
 桂ヲ訪ヒ又山中春洞ヲ俵町余ガ實家ニ訪
 フ春洞ハ余カ実父惣齋翁ノ門人ナリ五世就夫持世
 ノ後相續ノ子幼冲未タ業ヲ次グノ年齒ニ屆ラズ
 故ニ假ニ家ヲ春洞ニ託シ寓居セシム春洞能ク先師ノ業
 ヲ受ケ方令頗ル地下ニ匠名ヲ鳴ラシシ病客常ニ門ニ満ッ
 主人喜ヒ迎エ酒茶款待ス今月十五日ハ地下八
 幡宮ノ例祭ニ係ル故ヲ以テ市中ノ童男女今
 日ヨリ山鉾ヲ曳キ鼓舞者ヲ集メ時ニ舟町
 山門前ニ来ルト叫ブ立ッテ一覽ス亦々余ガ少

時ノ光景ヲ四像セリ款晤刻ヲ移シ去ッテ飯
 沼是九ヲ訪フ主人又夕酒ヲ供ス要事ヲ理シ去
 テ八幡宮ニ詣シ八時吉田ニ還リ一浴喫茶九
 時三十分寢ニ就ク美談ノ大故細民
 十四日晴六時起蓐早十二時吉田ヲ出テ荒川村
 ヲリ人車ニ駕シ大垣武衛宅ニ至ル主人酒ヲ
 供ス時ニ舟町山鉾門前ニ来リ舞伎ヲ演ス
 即チ棧敷ニ出且ツ觀且ツ飲ハ片山孫左近日事
 故アリ今次同行ノ約ヲ復ハ能ハスト聞ク由テ
 更ニ竹島町住木屋桑本太助ト同行約ヲ結ビ

當時俵町住

太助ハ飛脚ヲ葉トシ毎月一次東京ニ往來ス今月ハ十九日
發足ノ由同行ノ約ハ武術ニ依賴シ便理セシム

醉月堂ヲ訪フ主人又夕酒ヲ供シ高富ノ郵

二通ヲ交付ス

伴俊尊ノ贈歌ニ「いづく子にまわくれとも
まをたうふ公えうねるふつともふ」

今夜此家ニ一宿ヲ約シ七時此ヨリ去テ八幡宮

ニ詣ス市下ノ山鉾悉ク此境ニ漆マリ皆テ無

數ノ彩燈ヲ飾リ點シ頃次列ヲ成シ鼓樂シ

シテ曳キ去ル極ノテ美觀タリ九時醉月堂

ニ歸リ棋數局ヲ圍ミ十一時寢テ就ク

十五日

晴

六時起蓐今日祭事ノ當日ナレバ市

街毎戸棧棚ヲ設ケ花種ヲ敷キ山鉾ノ通

過スルヲ候ツ余主人ト酒ヲ飲ミ棋ヲ圍ハ午後

二時神輿通行祭儀全ク畢ル乃チ醉月堂ヲ拜

シ久世川ヨリ人車ニ駕シ六時三十分長招ニ帰

リ晚酌一醉十時寢ニ就ク

十六日

雨

午後一時與六大垣ヨリ來ル乃チ素名

彦兄ニ贈ル郵書一通ヲ附託ス今日無事ナ

ル故雜事ヲ輯録ス夜十時寢ニ就ク

十七日

晴

六時起蓐午後零十分家ヲ去赤

阪地名ニ赴キ大理石文錄ヲ購ヒ一茶亭ニ憩

ヒ草鞋ヲ買ヒ之ヲ穿テ金生山阪山ニ登

ル坂路ノ途中氷塊ヲ賣ル者アリ一掬ヲ買
ヒ喉ヲ沾ス清爽頗ル神氣ヲ撥揮シ狀甚シ
且フ嚼ミ且フ登ル行ク十二三丁ニシテ平坦
ノ地ヲ得老松一株アリ翠蓋平行四圍地ヲ
覆フ數十名ケテ傘招ト曰フ遊者常ニ坐シ
此招下ニ占ノ茶ヲ煮酒ヲ燂メ眺臨ヲ縱ッノ地
トス又行ク二丁許虚空藏堂アリ堂後巨岩
直竪立ス岩高二丈許周圍七八丈岩ノ正
面缺裂洞窟ヲ為ス窟中佛龕ヲ安ス佛
燈幽明更ラニ渴仰ノ念ヲ尚ユレハ此ヨリ上巨

岩大石壘疊瓦土ヲ見ズ為獅子岩為屏風
岩為虎豹石為廊廡石千態萬狀方物スベ
カラズ其中車轉々石ト名クル者高一丈餘圍三
四丈一大巨石上ニ懸在ス石上ニ攀テ登リ指
頭ヲ以テ其石ヲ摩スニ容易ニ動揺振顛シ
テ響アリホタ奇ト云フベシ其他奇岩怪石算
狀スハカラス蓋シ此ノ如キ石山實ニ稀ニ見ル
所ノ者彼ノ江州石山ノ若キモ恐ラクハ一步ヲ
下謀ルナルベシ凝神望立多時ニシテ山ヲ下リ
赤坂驛ニ還リ又一店ニ少憩シ故路ヲ取り

長招村ニ帰ル時ニ四時二十分ナリ

十八日晴六時起蓐今日吉田ヲ出發ノ期トス

朝飯後主人持茶ヲ點シ余ニ進メ和歌ヲ以テ

送別ノ志ヲ表ス

借リて思ふ國をわづれて行君此

四丈一丈うまや乃屋とりかほをほくう那

余ニ亦夕之ニ答エテ又ハ予悲高所を望ム

常大風是最凶毒ハ具ハ悲離レテ暮色風

十一時ニモナリヌレバ早ヤ別宴ノ酒肴ヲ陳ラテ

五ニ献酬數盃ヲ傾ケ晝飯ヲ喫シ午後零

十分身ヲ分テ吉田ヲ發ス姉君ハ總名代

トシテ長招村ノ東隣荒川村ノ東頭マテ少

婢ヲ携エ見送リ給ヒ此ニテ別ヲ告ケ車ヲ

走ラセ午後零五十分大垣本陣ニ到ル主人

酒肴供ハ款待ス夫ヨリ西寄ニ至リ別ヲ

酒肴供ハ款待ス夫ヨリ西寄ニ至リ別ヲ

告ケ山中春洞郡上屋へモ音ツレ醉月堂ニ至
ル主人ホ夕酒肴ヲ供シ別意ヲ表ス款略刻
シ移シ去ツテ本陣ニ還リ栗田太助ニ明朝發
程ノ刻限ヲ照會ス晡七時吉田賛三故^テラニ長
松ヨリ来リ別ラ告ケ日比野藤三モ来リ訪フ
時ニ西山寄ヨリ重諾ノ酒肴ヲ贈リ松奈越氏
自ラ来リ別ラ告ケ即チ重諾ヲ開キ献酬醉
ツ琴グ賛三藤左辭シ去リ盃盤ヲ収メ十一
時寢ニ就ク

十九日 晴又薄曇 五時三十分起薄六時二十五分

人車大垣ヲ費シ間道捷徑ヲ取リ平村渡^{比伊}
川下本郷渡^{長良川ヲ越}九時駒塚村ニ達
シ起川ノ下流ヲ渡シ立石^{美濃路官道}ニ出テ十
二^時年五十分名古屋屋廣小路ニ抵リ熱田明神
ヲ一拝シ又夕人車ニ駕シ池鯉鮒驛ニテ少
憩シ大濱ヲ過ギ招原ニサシカル東矢矧村
ノ西端ノ路尤^{即北}半丁許ノ地田畝中ニ方
五六歩許新^タニ玉垣ヲ構エ小祠堂ヲ立
テリ之ヲ車夫ニ問フニ昨年此迄地ニ家
ヲ建築スル者アリテ土ヲ此訃ヨリ運搬ス

ス適^タ歟ニ憂然響^キアリテ寶光内^レ發ス怪
シテ之ヲ視ルニ一箇ノ黄金瓶子ナリ仍^キ戒
慎歟ヲ下スニ又一箇ヲ得タリ驚ヒテ之ヲ官
ニ訴フ官因テ其古蹟ヲ討鑿シ全ク大友皇
子ノ由緒アルヲ見知シ更^ッノテ其地ヲ封シ此
祠堂ヲ立ツルナリト號シテ大友神社ト曰フ
六時十分岡寄驛拮据屋半二郎宅ニ投宿シ
今日發程ノ信ヲ東京ニ報知ス九時三十分
寢ニ就ク

廿日晴三時三十分起蓐四時二十五分蓐ヲ

發シ九時十分豊橋小島屋源四郎宅ニ少憩シ
午後十分新庄加納屋ニ著キ晝飯ヲ喫ス二
時汽船ニ駕シ發船ス水行中時々淺砂ニ膠シ船
之ガ為ニ滯滞シ頗ル時晷ヲ費ヤシ晡七時後
廿漸ク濱松堀留ニ上リ旅亭倉屋勝五郎宅ニ
泊ス此舟路一時頗ル便捷ノ實譽得シモ近者
天ニ疎懶ニ流レ散テ進速ヲ競フノ念ナク
恬然顧ミズ極メテ其聲價ヲ失ヘリ然ル
ニ荒井ノ舊渡口ハ如今大積費ヲ起シ此海
路ニ大橋ヲ架設セント已ニ其結構ニ著キ

セシト云此大橋就ラバ行旅皆十途ヲ之ニ
取ル丁疑ヲ容レズ新庄ノ船路ハ必然廢絶ニ
帰スル丁知ルベシ懶惰ト勉強ト究竟其成
果果シテ奈何十時ハ寝ニ就ク終夜遠洋豁
豁ノ声ヲ聞キ頗ル睡眠安ヲ妨ク

廿一日晴 三時十分起蓐四時二十分驛ヲ發シ
同シク四十五分天龍橋ニ抵リ五時三十分
見付驛ニ達ス此車夫極ノテ強健其走ル丁
飛ガ如ク一時間ニ四里程ニ達ス突ニ今次旅
行中第一ノ健夫ト稱スヘシ九時日返驛ニ少

憩シ轎ニテ山ヲ越エ十一時金谷驛ニ至リ晝飯
ヲ喫シ藤枝岡部鞠子ヲ過キ五時靜岡ニ至
ル此ニテ三島迄ノ切子ヲ買ヒ江尻ヲ經テ六時
三十分興津ニ達シ八時十分蒲原柏屋ニ宿
シ十時寢ニ就ク夜雨

廿二日朝雨午
後霽 六時起蓐今朝猶未夕霽レズ
八時後稍ヤ霽ヲ見テ乃々行ヲ發ス富士
川ヲ渡ル比雨全ク止ハ午後五十二分三島
驛世古六大夫宅ニ至リ晝飯ヲ喫シ此ヨ
リ轎ヲ賃ヒ七時二十分箱根石内氏ニ投

宿十時寢ニ就ク

廿三日 晴 朝四時箱根ヲ發シ歩シテ湯本マ

デ下リ此ヨリ人車ニ駕シ七時十分小田原驛

ニ抵リ九時南郷ノ一茶亭ニテ晝飯ヲ喫シ午

後四時二十五分加奈川驛ニ達ス時ニ汽車

將ニ發セントスルニ會シ直チニ之ニ駕シ

四時三十分發車

五時三十分芝停車場ニ著キ夫ヨリ途次

便宜ノ用ヲ理シ第七時吾家ニ歸リ一同

平安ヲ祝ス

題省濃紀行

後

西征應遊跨步

州澤成入事典

風湖宵中全拂

積年苦澆笛一

聲响多樓

省濃紀行終

宇興



